

夢と感動を届けるために 南三陸町のジュニア・リーダー



40年以上も前から、旧志津川町と旧歌津町で活動してきた、中高生によるジュニア・リーダー(以下、JL)。平成18年4月に南三陸町ボランティアサークル「ぶらんこ」(MVCぶらんこ)となり、現在に至っています。

友好町である山形県庄内町との小学生交流事業の運営補助や北海道本別町とのJL交流研修会、各地区での子ども会活動など、JLを核とした地域社会の活性化を推進していた日常が、突如、一瞬にして奪われた「3・11東日本大震災」。活動拠点の公民館も家も何もかもを失った彼・彼女らは、途方に暮れながらも諦めることなく、立ちあがり、今もなお活動を展開しています。

消えない友情

震災直後の避難所などで、たくさんの中高生が配膳や物資の配布を積極的に手伝っていました。とある避難所では、JLの高校生が、子どもたちの「校長先生」となり、我が身の苦しさに堪え、昼夜を問わず面倒をみていました。その一方で、これまでのようなJL活動はできないだろうと誰もが抱いていたはず。その思いを一瞬にして救ってくれたのは、27年もの間、南三陸町でJLの基礎知識を研修し、互いの地域のために切磋琢磨しながら交流を続けてきた、北海道本別町のJLでした。「これまで南三陸で行っていた夏の研修会を、本別でやろう！」本別町の中高生の思いが再起を奮い立たせてくれました。

町の復興へ向け、私たちJLにできることは何か。いつか必ず被災したこの町を復興させたいという思いで、子ども目線による意見を出し合うということから、今年1月からNPO法人ワールド・ビジョン・ジャパンの支援をいただき、町の復興計画を基にワークショップを重ねてきました。その結果、「子どもに笑顔を！地域に夢を！」というテーマが浮かび上がり、様々な取り組みを行ってきました。



子どもに笑顔を！ 地域に夢を！

町内小中高生約900名に「町のこれから」についてアンケートを実施(回答率96%)したり、ペイサイドアリーナを会場に、子どもたちの町づくり意見交流会を開催したりしました。

今年2月には、子どもたちとJLと一緒に「子どもスマイルミュージカル」明けの夜はないから」を実施し、5月には、震災後初となる子ども会活動が沼田地区で行われました。また、たつがねMTB大会のボランティアスタッフとしても活動し、元気な子どもたちと一緒に活動したJLは、「1年前と比べると子どもたちの笑顔が増えた気がする。もっともっと増えてほしい。」と話していました。

JLの最盛期とも言える夏休みとなりました。山形県庄内町との交流事業や新たにJLとなるための本別町との初級研修会など、様々な場面で、彼・彼女らは、夢と感動を届けてくれることでしょう。地域の皆様の御理解とお励ましをいただければ幸いです。

※ジュニア・リーダー(JL)とは

地域で活動する青少年ボランティアです。皆さんは、キャンプやボランティア活動など様々な体験活動に挑戦していますか？

教育委員会では、町子ども会育成会連絡協議会や県教育委員会、県子ども会育成連合会と連携して、子どもたちの遊びのリーダーであり、地域活動を積極的に行うリーダーである「ジュニア・リーダー」を育成しています。

問い合わせ 生涯学習課 ☎46-2639



6月23日には、「JL東京研修」として、東京国際フォーラムにて関東近県のJLや中高生と交流を図りながら、活動発表を行い、翌日は、中高生の意見等を反映して建設された杉並区立児童青少年センター「ゆう杉並」や地域の中高生が運営ボランティアとして活躍している、新宿区立四谷第四小学校跡地を活用した地域ひろば「四谷ひろば」を見学し、同年代の中高生が様々な形で地域の活動に関わっていることを肌で感じる事ができました。参加したJLからは、「子どもと大人のかげ橋は、私たちJLの使命でもあり、子どもたちや地域に夢と感動を届けるために活動を展開していきたい。」と話していました。